

# 女子中高生の理工系分野への進路選択促進等の 文部科学省の取組について

文部科学省  
科学技術・学術政策局人材政策課長  
奥 篤史

令和8年2月21日（土）

# 今後の科学技術人材政策の方向性（ポイント）

## I. 基本的考え方

- 科学技術や人材に係る政策は、産業競争力や総合的安全保障、地球規模の課題解決に直結するものとして、国家間の競争が一層激化。我が国としても、**科学技術や人材の力こそが国の存立・発展の礎**として認識することが必要。
- 科学技術・イノベーション政策の推進を担う中核的基盤は「**科学技術人材**」<sup>※</sup>であり、かつ、こうした「科学技術人材」に関わる政策・施策等は、他の政策・施策等と密接に関わるものであることから、科学技術・イノベーション政策全体を俯瞰した上で、**一体的・体系的・総合的な推進**が極めて重要。
- こうした観点から、科学技術・学術審議会 人材委員会において、「**今後の科学技術人材政策の方向性**」に関する検討を行い、現状・課題を整理の上、当面5年程度の間**重点的に推進すべき具体的取組や方向性**を取りまとめ（中間まとめ）。

※ 「科学技術人材」とは、「研究者・技術者のみならず、科学技術に関わる多様かつ幅広い人材を含む。また、自然科学分野のみならず、人文社会科学分野の人材も含む。」ものとする。

## II. 3つの基本方針

- ① **科学技術人材に対する投資の抜本的拡充**
  - ・ 科学技術・イノベーション推進の中核的基盤は、優秀な「科学技術人材」。
  - ・ 研究者・技術者等の多様な科学技術人材の育成・活躍促進や教育段階における人材育成機能の強化を図るため、**科学技術人材投資を抜本的強化**。
- ② **科学技術人材の多様な場・機会での活躍拡大**
  - ・ 科学技術人材が、アカデミア・産業界のみならず、広く活躍の場を拡大していくことが重要。
  - ・ 多様な科学技術人材の育成・確保とともに、**社会の多様な場・機会での活躍を拡大等し、「知の価値」を最大化**するための環境整備を強力かつ積極的に促進。
- ③ **科学技術人材を支える組織・機関の役割の重視**
  - ・ 科学技術人材の活躍促進・拡大を図るためには、こうした人材が所属し、支援する**組織・機関の役割**が重要であり、その機能・体制強化を一体的に推進。

## III. 科学技術人材政策の3つの柱

- ① **多様な科学技術人材の育成・活躍促進**
  - ・ **研究者**の育成・活躍促進に向けた研究費の充実や安定ポストの確保、活躍機会拡大や環境整備等を強力に推進
  - ・ **技術者**や大学等における**技術職員、研究開発マネジメント人材**をはじめとする高度専門人材の育成・確保等の取組を総合的に推進。
- ② **各教育段階における科学技術人材の育成**
  - ・ 初等中等教育から高等教育まで、**学校教育段階**に応じた多様な科学技術人材の育成を**体系的**に推進。
  - ・ **博士後期課程学生への支援**や、理工系に進む**児童生徒**の拡大に向けた産学官連携の取組、科学技術に親しむ人材層の拡大に向けたコミュニケーション活動等を強力に推進。
- ③ **科学技術人材に関わる制度・システム改革の推進**
  - ・ 科学技術人材の活躍促進に向けて、関連する**社会制度やシステム・規制等の改革**、さらには科学技術人材を支える組織・機関等の機能強化・改革等の取組を幅広く推進。

## IV. 多様な科学技術人材の育成・活躍促進

### 1. 優れた研究者の育成・活躍促進

#### (1) 多様な研究費の充実・確保

##### ① 研究費の質的・量的な充実・確保

- ・ 基盤的経費や多様な競争的研究費制度の充実・強化
- ・ 重要科学技術・産業分野における産学の研究開発や人材育成を一体的に支援する**新たな枠組み**の構築、等

##### ② 競争的研究費制度の改革（特に、人的資本投資拡大）

- ・ 競争的研究費制度について、研究者及び機関・組織の支援の観点から、使途拡大や効率的運用を図るとともに、**人件費支出を促進し、割合を高める**取組を検討・推進（直接経費（PI人件費拡大）・間接経費活用等）、等

#### (2) 安定したポストの確保

##### ① 基盤的経費等による安定したポストの確保

##### ② 競争的研究費や外部資金等の活用による新たなポスト確保

- ・ 基盤的経費等に加えて、財源の多様化の観点から、**競争的研究費や外部資金**等を積極的に活用した若手研究者等の**安定ポスト確保**、等

#### (3) 研究者による活躍の場・機会の拡大

##### ① 国際的に活躍する研究者等の育成・確保

- ・ 優れた研究者の**海外派遣・招聘**の戦略的強化、等

##### ② 産学官連携による研究者の育成・活躍促進

- ・ 産学間の人的交流の促進に向けて、共同研究や**クロスアポイントメント**制度等の活用拡大、等

#### (4) 組織・機関における研究環境整備

- ・ **研究開発マネジメント人材**や**技術職員**の育成・確保
- ・ 先端研究施設・設備・機器等の共用促進・体制整備、等

### 2. 産学で活躍する技術者の育成・確保

#### (1) 大学・大学院及び高等専門学校における工学系教育

- ・ 大学等における技術者育成に係る**実践教育**の強化、カリキュラム内容向上・見直し、**教育の質保証**の担保のための取組推進（JABEE認定拡大等）、等

#### (2) 産学で活躍する優れた技術者の確保・活躍促進

##### ① 大学・企業等で活躍する技術者の育成・確保

- ・ **先端研究施設・設備・機器等の整備・共用・高度化等**や産学官共同研究等を通じた技術者・技術職員の育成、等

##### ② 大学等における技術職員の育成・確保

- ・ 技術職員の処遇等に係る人事制度**ガイドライン**の策定
- ・ 産学官連携の研究開発事業への技術職員の参画、等

#### (3) 技術士制度の活用促進

- ・ 技術士資格取得を促進する**インセンティブ**の検討、等

### 3. 大学等で活躍する高度専門人材の育成・確保

#### (1) 研究開発マネジメント人材の育成・活躍促進

##### ① 研究開発マネジメント人材の位置付け・役割明確化

- ・ 業務・処遇の在り方、職階制度等の優良事例を示す人事制度**ガイドライン**の策定、等

##### ② 研究開発マネジメント人材の育成・確保・活躍促進

- ・ 大学等における登用・処遇等に係る**支援事業**の強化、等

##### ③ 研究開発マネジメント人材に係る取組の普及展開

- ・ 国の事業において、大学等の体制整備の**要件化**、等

#### (2) 多様な専門人材の育成・活躍促進

- ・ 知財・国際標準化、事業化支援等の専門人材、等

## V. 各教育段階における科学技術人材の育成

### 1. 大学・大学院における教育研究活動の充実・強化

#### (1) 博士人材の育成・確保及び多様な場での活躍促進

- ① 博士後期課程学生の不安を解消する経済的支援等
  - ・ **特別研究員 (DC)** の研究奨励金の単価引上げ
  - ・ **SPRING**による、特に経済的不安等を主要因として進学をためらう優秀な日本人学生の進学の後押し、等
- ② 博士人材の社会の多様な場での活躍促進
  - ・ SPRINGにおけるキャリアパス支援の実施、社会人学生や留学生を含む特に優秀な学生に対する研究費の重点化等の**支援の階層化**、優秀な留学生を確保するための**国・地域の多様化**に向けた取組の更なる促進、等

#### (2) 大学・大学院改革等の一層の推進

- ① 大学等の教育研究活動に対する支援の充実・強化
- ② 大学共同利用機関、共同利用・共同研究拠点の強化

### 3. 次世代人材育成に向けた科学技術コミュニケーションの展開

- (1) 科学技術コミュニケーションの推進 (対話・共創の場の拡大・日本科学未来館の活用、**STEAM教育との連携**、等)
- (2) 科学技術と社会に関わる研究開発の推進 (総合知を活用して取り組む社会課題の特定・研究開発の推進、等)
- (3) 科学技術コミュニケーションに関する人材の育成 (大学・科学館等における**人材育成**の拡大、関係機関間の連携、等)

### 2. 初等中等教育段階での科学技術人材の育成

#### (1) 先進的な理数系教育の充実・強化

- ① **STELLA事業**の推進
  - ・ 高い意欲・能力を持つ児童生徒を伸ばす拠点数拡大、等
- ② **SSH事業**の発展・強化
  - ・ 指定校の取組の**高度化・深化**を促す**SSH事業改革**、等
- ③ 科学技術コンテスト支援の充実
  - ・ 国際科学技術コンテストへの派遣支援、等

#### (2) 小・中・高等学校における理数系教育の充実

- ① 学校における理数系教育の充実
- ② 女子中高生等の理系進路選択支援
  - ・ 女子中高生対象プログラムやSTELLA事業の対象・拠点数の拡大等を通じ、**理工系の興味・関心喚起**、等
- ③ 産官学連携による科学技術人材の裾野拡大

## VI. 科学技術人材に関わる制度・システム改革の推進

### 1. 多様な科学技術人材が活躍できる環境整備

#### (1) 研究活動におけるダイバーシティの確保

- ① 女性研究者の活躍促進 (**女性研究者**の一層の登用、上位職への登用・処遇改善の推進・支援、等)
- ② 外国人研究者の招聘・活躍促進 (国際共同研究等を通じた**海外の優れた研究者**の登用・支援推進、等)

#### (2) 産学官における人材流動促進 (クローアポ促進、等)

### 2. 科学技術・イノベーション推進に係る制度・規範の整備・推進

#### (1) 研究者等が順守・尊重すべき規範等の整備・運用

- ・ **研究インテグリティ・研究セキュリティ**確保の取組推進、等

#### (2) ELSIへの対応

- ・ 国の研究開発事業全般における**ELSI**の体制強化、JST-RISTEX社会技術研究開発事業等によるELSI関連の人材育成の促進、産業界等との連携拡大、等

## 2. 初等中等教育段階での科学技術人材の育成

### 2-2. 現状・課題

#### (2) 小・中・高等学校段階における理数系教育の充実 (課題・指摘事項)

抄

- 理系の学科、特に理工系の学科への入学者比率は諸外国の中でも低位にあり、**特に、女子の理工系進学率が低い状況**にある。**女子の理工系進学率**は、直近の数年において上昇基調にあるものの、OECD 諸国の中で低位にあり、**OECD 平均と比較しても大幅に低い**。理工系進学率上昇の基調を維持・向上させていくことが必要であり、現在進めている**女子中高生の理系選択支援の取組を、面的に広めていく**ことが期待される。また、STEAM 教育を通じて科学技術と社会の結びつきについて理解することが、女子中高生の理系進路選択につながる可能性がある。
- **女子が理工系に進んだ場合の将来のキャリアが見えにくいことが課題**の一つと考えられ、大学院生等のロールモデルに、特に地方の女子生徒に対して、**具体的な進路や人生設計と結びつけながら情報発信**してもらうことが重要。また、理工系進学の出発点となる**企業の協力を得ながら理工系進学の魅力発信に取り組んでいくことも有効**と考えられる。
- 加えて、特に地方において、優秀な女子生徒が周囲の反対にあって理工系進学を断念するケースが存在することから、女子生徒本人だけではなく、**保護者や進路指導の教員、社会全体へのアプローチも重要**である。
- また、TIMSS 調査によれば、算数・数学、理科への興味・関心や得意意識は、小学校段階で既に、男子の方が女子より高いという結果が出ており、**より低年齢から、理工系進路選択支援のアプローチを行うことも必要**ではないかと考えられる。

## 2. 初等中等教育段階での科学技術人材の育成

### 2-3. 今後の具体的取組・方向性

#### ② 女子中高生等の理系進路選択支援

##### <具体的取組・方針>

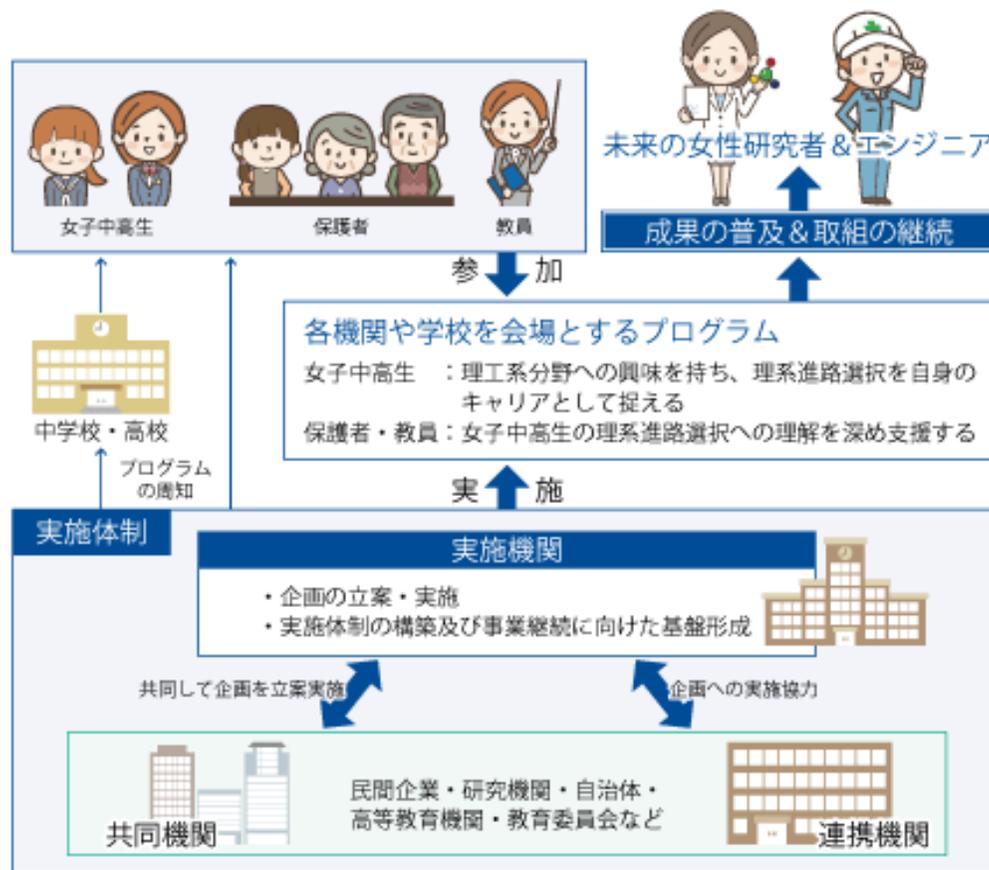
- 国は、JST とともに、女子中高生の理工系分野に対する興味や関心を高め、理工系の進路に進むことを後押しするための「**女子中高生の理系進路選択支援プログラム**」について、**地方における取組を推進**するとともに、日本全国で取り組むことができるよう、**拠点数の拡充を検討**する。
- その際、女子生徒の進路選択に影響を与える**保護者・教員等へのアプローチも重視**するとともに、進路未決定層のほか、その時点では理工系分野への関心が低い層にもアプローチしていくことができるよう、教育委員会・学校等と連携した**出前授業等のアウトリーチ活動を推進**する。また、より低年齢から理工系進路選択支援のアプローチを行うことも必要と考えられることから、**小学生を対象として行われる取組も含めて支援**を行う。
- さらに、国は、理工系分野での活躍を含む、女性の多様な選択を可能にするための教育・学習プログラムの開発・普及を図るとともに、教育分野のアンコンシャス・バイアスの解消や男女共同参画の推進に取り組む。また、未就学児がジェンダーバイアスにより自分の可能性を狭めてしまわないよう、幼児期の教育現場等における固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスの解消に資する方策について引き続き調査研究を行い、成果物について周知・普及に努める。

## 事業の目的・目標

- 女子中高生の理工系分野に対する興味・関心を高め、更に意欲・能力を伸長させる機会を提供することで、理工系分野への進学を促進するため、科学技術分野で活躍する女性研究者・技術者、大学生などと女子中高生との交流機会の提供や、シンポジウムや出前授業などの取組に加え、地域や企業等と連携した取組などを実施する大学等を支援する。

## 支援の概要

- 採択期間 : 3年間
- 実施規模 :  
 取組実施中 : 11拠点  
 令和8年度新規 : 公募中 (数拠点)
- 支援額 : 年間300~600万円/機関
- 対象 : 女子中高生、保護者、教員等
- 内容 : シンポジウム開催、実験、出前講座、  
 理系キャリア相談会等



女子中高生の理系進路選択支援プログラムの概要

## 理工系分野における多様な学びの機会の提供

### 1. 出前授業による実験体験

教科書の内容を超えた範囲を出前授業の形で実施。視野を広げ、理数分野への関心を広げるきっかけにする。



<大学の先生に教わりながら実験体験>

### 2. 企業見学・フィールドワーク

地元企業へのフィールドワークを実施。企業紹介、女性社員との交流などを行うことで進路選択の参考にする。



<発電所見学（フィールドワーク）>

## 保護者・教員へのアプローチ

### 1. 保護者・教員向けへの理系進路選択支援イベント・ワークショップ

女子生徒の理系への進路選択支援を後押しする講演会を開催

女子生徒のキャリア支援を考える保護者向けワークショップ・講演会の開催



## 理系女性のロールモデルの周知



<ロールモデル講演会>



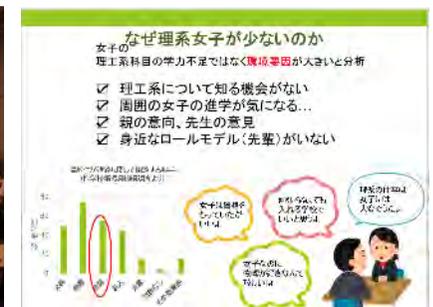
<ロールモデル集>

### 2. 教員向けの情報提供

校長会等の既存の集会を活用し進路選択支援に関する理解を深める講演会を実施



<教員向け講演会の様子>



- 取組参加者数（令和6年度実績）：女子中高生 延べ**9,463名**
- 科学を学ぶことへの興味について、既に高校1年生の時点で男女差が生じていること等から、**女子中学生を対象**とした取組を実施することを必須（令和5年度は、取組に参加した女子生徒の**半数以上が中学生**）
- **文理選択を迷っている生徒の意識変容**に寄与

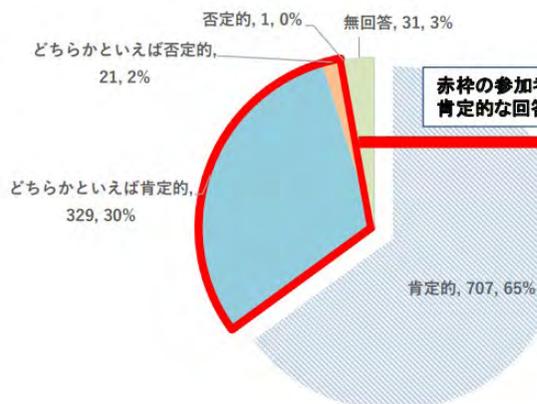
## 「文理選択を迷っている/考えていなかった」参加生徒のアンケート回答結果（R6・全実施機関総計）

科学技術や理科・数学に対する興味・関心が高まった	<b>83%</b>
科学技術や理科・数学に対する学習意欲が高まった	<b>75%</b>
理系の進路を前向きに選択しようと思うようになった	<b>66%</b>
理工系分野の職業につきたいと思うようになった	<b>51%</b>

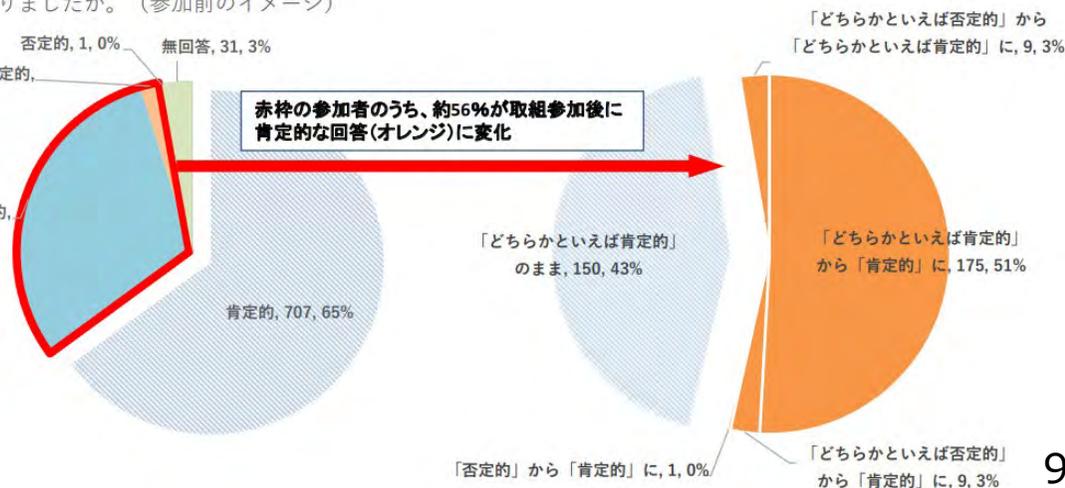
左表集計対象：  
実施機関の取組に参加した生徒のうち、「文理選択を迷っている/考えていなかった」と回答した2,765～2,779名※  
※無回答者は集計から省いた

- **保護者・教員の意識変容**に寄与  
取組参加前、女性が理系の職業に就くことについて「どちらかといえば肯定的」、「どちらかといえば否定的」、「否定的」と回答した約32%の保護者・教員参加者のうち、約56%が、より肯定的な回答に変化  
(令和4年度参加者へのアンケート回答結果)

Q. 女性が理系の職業に就くことに対するあなたのイメージに変化はありましたか。（参加前のイメージ）



赤枠の保護者・教員の参加後の回答





## 背景・課題

- Society 5.0の実現に向け、**未来を創造する科学技術人材**の体系的育成や、**才能ある児童・生徒が最先端の研究等にアクセスする機会の充実**が不可欠。

### 第6期科学技術・イノベーション基本計画 (令和3年3月26日閣議決定) 【抄】

- 突出した意欲・能力を有する児童・生徒の能力を大きく伸ばし、「出る杭」を伸ばすため、大学・民間団体等が実施する合同合宿・研究発表会など学校外での学びの機会や、国際科学コンテストの支援など国内外の生徒が切磋琢磨し能力を伸長する機会の充実等を図る。

### 我が国の未来をけん引する大学等との社会の在り方について (第一次提言) (令和4年5月10日教育未来創造会議) 【抄】

- 突出した意欲や能力を有する小中高生等を対象とした、大学等における、探究・STEAM・アントレプレナーシップ教育等を含む高度で実践的な講義や研究環境を充実。

### 統合イノベーション戦略2025 (令和7年6月6日閣議決定) 【抄】

- 小学校段階から高等学校段階まで一体的に育成するプログラムの実施機関数を拡充、教育委員会等と連携し、希望者のアクセス機会を確保。

### 経済財政運営と改革の基本方針 (骨太の方針) 2025 (令和7年6月13日閣議決定) 【抄】

- **科学技術人材**の育成を強化する。

## 事業概要

〔事業開始：令和5年度〕

高校生を対象としたグローバルサイエンスキャンパス (H26開始) 及び小中学生を対象としたジュニアドクター育成塾 (H29開始) を発展的に統合。実施機関の特徴や所在地域の実情に応じて、対象世代を選択できる制度として、拡充し、運営を改善。**初等中等教育 (小学校高学年～高校生) 段階において、理数系に優れた意欲・能力を持つ児童生徒を対象に、その能力の更なる伸長を図る育成プログラムの開発・実施に取り組む大学等を支援。**

### 【事業の目的・目標】

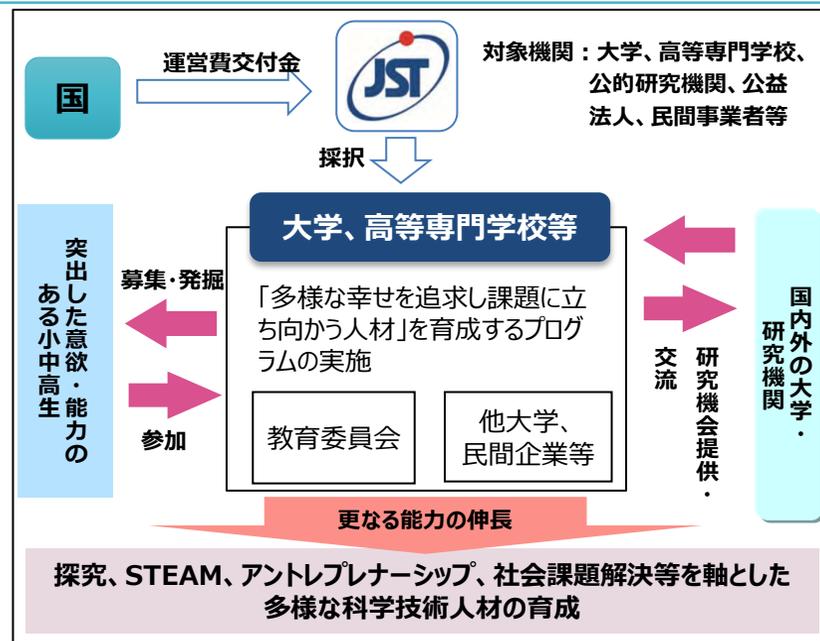
**小中高生が、最先端の探究・STEAM、アントレプレナーシップ教育を受けられる機会を創出**することにより、**将来グローバルに活躍する次世代の傑出した科学技術人材を育成**する。

### 【事業スキーム】

- 採択期間：5年間
- 対象者：小学5年生～高等学校／高等専門学校3年生
- 実施規模：38機関程度 (※ジュニアドクター育成塾継続10機関を含む)  
うち令和8年度新規：4機関程度 (小中：1機関、高：2機関、小中高：1機関)
- 支援額 (／機関・年)  
小中：10百万円、高：30百万円、小中高：40百万円
- 加えて、科学技術・学術審議会人材委員会における「中間まとめ」を踏まえ、より幅広く理数系に興味・関心のある児童生徒を対象とした育成段階を導入、追加的に実施する機関を支援 (**新規**)  
(小中：2機関・2百万円/年、高：3機関・2百万円/年、小中高：2機関・4百万円/年)
- 対象機関：国公立大学、大学共同利用機関、国立研究開発法人、高等専門学校、公的研究機関、科学館、博物館、公益法人、NPO法人、民間事業者

### 【特徴と期待される効果】

- 実施機関の特徴を生かした制度設計、多様な機関との連携深化
- 児童生徒 (特に小中学生) のアクセス機会の確保、地域の実情に即した人材育成拠点化、実施機関による地域への普及・展開
- アントレプレナー・デジタル人材・グローバル人材など多様な素養を有する科学技術人材の育成



(担当：科学技術・学術政策局人材政策課)

## 東北大学 小中高大連携「科学者の卵養成講座」

- 科学に対する強い興味と探究心を持つ小中高校生を集め、**将来国際的に活躍できる「科学者の卵」を養成**
- 共同機関である岩手大学・宮城教育大学とともに、**大学の多彩な研究教育資源を活用し、高レベルの講義や実習と研究活動、多様な価値観を持った人的交流の機会**を提供
- 令和6年度参加者の**約半数が女子生徒**

【具体的なプログラム内容（活動例）】

### 小中学生プログラム

- ・研究施設や被災地の見学、観察、探索活動を通じて、「科学の眼」を養成
- ・理科実験・科学体験を通して科学的な見方を会得
- ・研究指導やメンターの支援を受けながら個人/グループ研究を実施、発表



### 高校生プログラム

- ・東北大学の理系全学部の運営により、最先端科学に関する講義を提供
- ・大学の研究室に一定期間所属し、研究への姿勢や取り組み方等を習得
- ・特に優れた受講生は研究活動を継続、英語で学会発表できるレベルを目指す



## 東京大学 未来を切り拓くグローバル科学技術人材の育成プログラム：UTokyoGSC-Next

- 3段階でのSTEAM型課題研究活動を通して、**小学校高学年から高校生までをシームレスに育成**
- 教科等横断的なSTEAM教育を通して、発達段階に応じた五つの能力**①知識俯瞰能力、②情報分析能力、③課題発見・解決能力、④コミュニケーション能力、⑤研究検証能力を育成**
- 令和6年度参加者の**約半数が女子生徒**

【具体的なプログラム内容】（活動例）



**第一段階（萌芽コース）小・中**  
アクティブラーニング型授業（実験・講義等）や理数情報系専門家による研究指導



**第二段階（成長コース）主に高**  
学際的な最先端研究の講義や論文読解、科学英語の授業、研究計画を練るワークショップ



**第三段階（発展コース）高**  
東京大学の研究室に受講生を配属 研究指導を受けながら調査・実験や研究発表を行う



## 目的

- 先進的な理数系教育や、文理融合領域に関する研究開発を実施している高等学校等を、「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」に指定し支援することを通じて、将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成を図る。
- 高等学校等の理数系の教育課程の改善に資する、実証的資料を得る (学習指導要領の枠を超えた教育課程の編成を可能に)。

## 事業概要

### <SSHとしての指定>

#### 【基礎枠】

- 令和8年度指定校数：  
229校程度 (うち認定枠：22校)  
(うち新規：27校 (うち認定枠：5校))
- 指定期間：各期原則5年
- 支援額：6百万円～12百万円/年

#### ● 類型

<基礎枠> 自然科学を主とする先進的な理数系教育に関する研究開発を実施。

<文理融合基礎枠> 社会の諸課題に対応するため、自然科学の「知」と人文・社会科学の「知」との融合による「総合知」を創出・活用した先進的な理数系教育に関する研究開発を実施。

### <SSH指定校への追加支援>

#### 【重点枠】

- 令和8年度重点枠数：  
13校+1コンソシアム程度 (うち新規：2校程度)
- 指定期間：最長5年
- 支援額：10～13百万円/年
- 類型

<広域連携> SSHで培った成果等を広域に普及することにより、地域全体の理数系教育の質を向上。

<海外連携> 海外の研究機関等と連携関係を構築し国際性の涵養を図るとともに、将来、言語や文化の違いを越えて共同研究ができる人材を育成。

<革新共創> 社会問題・地域課題について、文理横断的な領域も含めた科学的な課題研究を行い、新たな価値の創造を志する人材を育成 (アントレプレナーシップ教育等)。

#### 【重点配分】※令和9年度からの事業改革に向けた先行的・試行的実施

- 令和8年度採択数：4校程度 (新規)
- 指定期間：5年
- 支援額：1.5～5.5百万円/年

人材育成戦略等に応じて、指定校が取組を一層高度化させるための追加的な支援を実施。

#### 【認定枠向け加速支援】※令和9年度からの事業改革の一部先行実施

- 令和8年度採択数：4校程度 (新規)
- 支援額：3百万円/年

取組の更なる高度化に向け、追加の研究開発等を支援。

### <管理機関への追加支援>

#### 【SSHコーディネーター】

- 令和8年度配置数：  
20機関程度
- 支援額：6.6百万円/年
- 令和5年度より開始

以下目的を達成するため希望するSSH指定校の管理機関 (教育委員会等) に「SSHコーディネーター」を配置

- SSH指定校や地域の探究・理数系教育の充実
- 域内外の学校への成果普及
- 外部機関との連携を推進
- SSH指定校の自走化

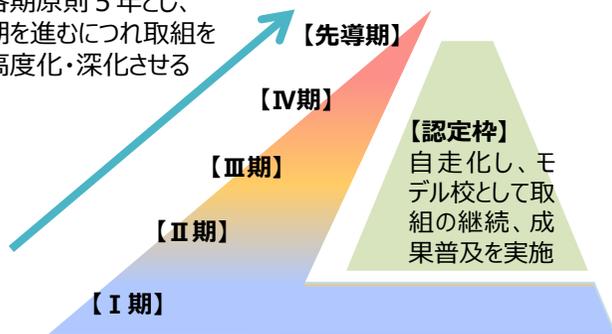
## 成果

- 研究者をはじめとするSSH卒業生が、国内外で活躍
- 学習指導要領改訂 (科目「理数探究基礎」「理数探究」の新設)
- 科学技術への興味・関心や姿勢の向上、理数系への進路選択
- 国際科学技術コンテスト等での活躍

## 支援内容

- 学習指導要領の枠を超え、理数を重視した教育課程の編成
- 国内外の高校・大学等との連携、課題研究の実施等に係る費用 (旅費、物品費、等) の支援

各期原則5年とし、期を進むにつれ取組を高度化・深化させる



# スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業における女性の理工系人材育成の取組

## SSHの審査の観点（令和8年度公募）

### ➤ 5. その他の研究開発内容

- ① 大学や研究機関又は産業界との効果的な連携がSSH指定校の主体的な取組として計画されているか。
- ② 地域との連携、他の高等学校や小中学校等との連携を図るための効果的な取組が計画されているか。
- ③ 国際感覚等を育てるための効果的な取組が計画されているか。その際、国際会議への参加、国際大会への出場等、国際性の育成のための取組が併せて計画されているか。外国語によるコミュニケーション能力、とりわけプレゼンテーション能力やディスカッション能力等を育てるための効果的な取組が計画されているか。
- ④ 科学部等理数系の教育課程外の活動を充実するための効果的な取組が計画されているか。また、科学技術・理数系コンテスト、科学の甲子園等への参加を促進するための効果的な取組が計画されているか。
- ⑤ **生物、医学系に限らない理工系領域を志す女子生徒を育成する効果的な取組が計画されているか。**
- ⑥ 課題研究等の取組の高度化を図るために、博士号を持つ教員を積極的に活用する取組が計画されているか。

## 愛知県立一宮高等学校の取組例

### 女性科学者のたまご育成プロジェクト

- 大学や産業界と連携し、地域の中高生や保護者が進学や就職において抱くジェンダーバイアスをなくし、自己の特性に合った進路決定を促すことのできる地域プロジェクト
- 女性科学者の講演や研究施設の見学、女性科学者や理系女子大学生とのディスカッションなどを通して、仕事とプライベートを両立するリアルな女性科学者像についてのイメージを持たせ、工学、理学、情報などの多様な科学技術・学術分野における女性の活躍を促進



（学校HP等より文科省作成）

# スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業における女性の理工系人材育成の状況

## SSH指定校卒業生の進学状況

- SSHの活動に取り組んだ指定校卒業生の理工系学部への進学率は全国平均を大きく上回っており、**女子生徒の理工系学部への進学率も高い。**

（令和5年度学校基本調査、SSH活動実績調査より算出）

SSH生徒全体	全国平均
26.43%	17.56%
SSH女子生徒	全国女子平均
13.19%	6.87%

## SSH指定校卒業生の活躍



京都大学大学院工学研究科  
助教（インタビュー当時）

**名村 今日子さん**  
（京都市立堀川高等学校卒業生）

SSHの活動では、さまざまなフィールドワークに参加しました。滋賀県にある伊吹山の夜間登山、スーパーカミオカンデの見学、化石調査など、**普通の高校生活ではできないような体験ができ、自分にとって大きな財産になりました。**

京都大学の大学院生・研究生の方たちが、**ティーチングアシスタントとしてSSHの活動をサポートしてくれたこと**も印象深いです。（略）授業でも、「探究活動」というSSH独自の科目が設けられており、**論文の書き方など研究の基礎となる手法を学べました。**（卒業生活躍事例集より）



大分大学理工学部  
助教（インタビュー当時）

**小西 美穂子さん**  
（大阪府立天王寺高等学校卒業生）

（SSH活動の一つである課題研究において）**大阪市立大学で学部1年生向けの「結び目理論」の授業に参加**させてもらい、その後「この理論を使って何か研究してみなさい」という課題が出されたと記憶しています。（略）課題研究を通じて、（略）**基礎研究のどんなものにも使えるおもしろさに興味を持ち、「これは何だろう」ということを突き詰めて研究していきたいと思うようになりました。**また、研究の一連の過程の中で文書作成や表計算、プレゼンテーションといった各ソフトの基本的な使い方を習得できたことも良かったと感じます。（卒業生活躍事例集より）

# 大学（学部）の理工系に占める女性の割合

